

令和4年度自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立東郷小学校

校長名 本田 弘樹 印

1. 学校の教育目標

- 特別活動を中心にした「主体的、対話的で深い学び」により「自分の学びを高めようとする」児童の意欲向上とICT活用の推進
- チーム対応による生徒指導力の向上と特別支援教育の充実
- 特色ある「ふるさと教育」の推進

2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- (1)学ぶ意欲の向上と確かな学力の向上(学びの力づくり)
- (2)支え合い高め合う人間関係づくり(豊かな心づくり)
- (3)健やかな体づくり(健康な体づくり)
- (4)地域に根ざし開かれた学校づくり

3. 評価項目の達成及び取組状況

- ◎「3・4」の評価結果の表示方法 A…十分達成されている B…達成されている
C…取り組まれているが、成果が十分でない D…取組が不十分である

評価項目	結果	成果と課題(自己評価表の【具体的方策】の検証)
(1) 学びの力づくり	B 中間 C R3 B	①特別活動、ICT活用、家庭科を中心とした研究の推進 ○特別活動、ICT活用の研究授業を全員が行った。特別活動は3年目となり、足並みもそろい研究の成果が見えてきた。自分の思いが言え、自分たちで決めたルールを守っていこうとする意識が[児童アンケート2]の数値が上昇したことからもうかがえる。 ○ICT活用が日常化し、[児童9]の数値に表れている。 ○家庭科については1年目の研究であり、全国研究大会、中国四国大会の参加を始め、理論研修、模擬授業等を行った。また、12月には町のICT実践授業を本校が家庭科で行うなど、実践の積み上げの意識が高まってきている。 ○[児童5:先生はわかりやすく教えてくれる]、[保護者5:お子さんは、授業が分かりやすいと言っている]の数値が上昇した。 ▲全国学力・学習状況調査の学力が全国を下回った。学力の定着、思考や表現力が求められる活用問題に慣れる方策が必要である。 ▲[児童12:家庭学習〇〇分以上している]が低い数値となっている。 ▲保護者アンケート(記述)より、コロナの自宅待機等で学力の低下を心配する声がある。 ②タブレットを家庭に持ち帰って学習できる体制の構築 ○町内で先進的に家庭に持ち帰って試行・学習する取組を実施することができた。(2学期:高学年、3学期:下学年。各2回)
(2) 豊かな心づくり		①学級経営の充実 ○[児童7:先生や友だちの話をしっかり聞いている][児童16:先生は私たちの話をよく聞いてくれる]などの数値が高く、学習規律の土台となる学級経営の成果が見られる。 ▲一部の児童が離席をしたり、担任に反抗的な態度を示すなどの行動が見られたが、全職員で関わりながら対応し、保護者との支援会議、関係機関との連携をし、現在は落ち着きを取り戻している。通常学級で支援が必要

(様式4)

(2) 豊かな心づくり	B 中間 B R3 B	な児童の理解とともに、その児童を学級が受け入れる特別支援教育(インクルーシブ教育)の充実の必要を感じた。 ②体験活動等の保障 ○コロナウイルス感染症対策を講じながら、児童の成長に必要な体験活動やゲストティーチャーを招いての学習を可能な限り行うことができた。 ○6年の広島修学旅行、5年の船上山宿泊学習を実施することができた。 ▲学年によって取組に差異が見られた。来年度以降は家庭科の研究を通して系統的な年間計画の作成が必要である。 ▲コロナ対策として、異学年の交流や全校児童の集会等がほとんどできなかった。 ③いじめの早期発見をはじめ危機管理の充実 ○いじめの件数が昨年度より減少した。(R3:9件、R4:3件) ○報連相が徹底され、早めに関係者があつまり対応を協議できた。 ○週に1回ある終礼で気になる児童の状況を全職員で共有した。 ▲不登校児童が現時点で4名(R3:6名)、相談室・保健室利用者が最大6名おり、教育相談等の不登校対策が必要である。 ▲[児童1:学校に来るのが楽しい]の肯定的評価が伸び悩み、全学年とも9割を切った。
(3) 健康な体づくり	C 中間 B R3 C	①陸上クラブ、放課後水泳等の保障 ○コロナの状況を見ながら可能な限り実施に努めた。 ▲児童アンケートの「健康・体」の項目の低下が目立った。 ▲郡水泳大会、中部・県陸上大会中止(町水泳大会は5・6年入替方式) ②「東郷小ガイド」によるゲーム・寝る時間等の目安の普及 ○「東郷小ガイド」を発行することができた。 ▲[保護者3:お子さんは、テレビ・ゲーム・スマホ・タブレットの時間を決め、それを守っている]の結果が著しく低い数値となった。 ・PCR検査4回実施[7/23(土)、7/26(火)、12/20(火)、1/29(日)] ・コロナ対策による影響(体力低下、体験・人間関係づくりの不足等)が心配である。
(4) 地域に根ざし開かれた学校づくり	A 中間 A R3 A	①参観日等の保障 ・4/22(金) 学級懇談会のみ実施(PTA総会は書面審議) ・5/17(火) 2・3限に分けて授業参観(地区別)。学級懇談会中止 ・6/17(金) 町学校一斉公開(午前)・参観日・学級懇談会(午後) ・9/10(土) 運動会(午前。各家庭3名以内に制限) ・10/21(金) 学習発表会(低・中・高学年で入替。各家庭2名以内) ・11/25(金) 人権教育参観日中止 ・3/2(木) 参観日・学級懇談会【実施予定】 ○各学級での親子会を3年ぶりに実施することができた。 ▲保護者アンケート(記述)に「授業中の様子を見に行ける機会が1回でもあればうれしい」という声のように、授業公開は現時点で2回のみの実施となった。 ②ふるさと教育の充実 ○別表のとおり、充実してきている。 ③ボランティア活動の新規・継続 ○2年のおでんパーティ、3年のJA女性部協力の梨クッキング、4年の野草の会協力の東郷池ウォーク、町観光協会協力のガイド体験、中央公民館協力の夏休み宿題教室など、新規の取組が増え充実した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	(1) 研究推進については、特別活動は3年目で一定の成果が出た。ICT活用は2年目の取組が終了し、授業での活用は浸透してきた。今後は家庭の持ち帰りを習慣化し、宿題や欠席・休校の場合の連絡や学習権の保障につなげたい。1年目の家庭科教育は理論研が中心だったが、来年度は年間計画を作成し、実践の積み上げを図りたい、 学力の保障については大きな課題が残った。研究と繋がることが理想であるが、難しい場合は他の対策を講じる必要がある。
中間 B	(2)生徒指導も危機管理ととらえ、体制が整いつつあるが、気になる児童・困り感のある児童の対応に課題が残った。今後は本校の特別支援教育の方針を明確にする必要を感じた。
R2 B	(3)家庭でSNS等を長時間しているという課題が浮き彫りになった。このことは健康な体づくりに限らず、学びや豊かな心づくりに大きく関わっているため、枠を超えた課題として取り組む必要がある。
	(4)コロナ禍により、生活体験や人との交流が制限されてきた。成長過程に必要な体験・交流、それに伴う安全の保障を、今後も地域やボランティアの力を借りながら継続・向上を図りたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
(1)「東郷小ガイド」の内容の普及 ・家庭内での電子メディアの時間 ・家庭での学習時間	①教室掲示、校内掲示 ②児童への周知・指導(全校・学級で、GTによる情報モラル教育) ③保護者への周知・啓発(PTA総会、PTA講演会)
(2)家庭科教育の推進	①年間計画作成(各教科・領域の連携) ②ふるさと教育との連携 ③保護者・地域との連携 ④交流活動の推進 ⑤効果的なICT活用
(3)特別支援教育の充実	①本校の特別支援教育の目標の明確化 ②特別支援教育の視点を明確にした学級経営の充実 ③効果的なケース・支援会議、関係機関との連携